

令和3年3月中旬現在

	調査時期	11月中旬				11月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R2.11.14	R2.11.14	R2.11.13	R2.11.13	R2.11.29	R2.11.27	R2.11.27	R2.11.27	
飛来状況	前年度同時期と同程度の飛来状況と思われる。観察後近くでチョウゲンボウ・ノスリ等の猛禽類が見られた。	池のハスはまだ青く枯れていないところが多い。カウントしづらい。猛禽類はミサゴ・オオタカが観察された。	カモ類は、前年度同時期と比べて少ない。相生橋下流の電線にはツバメ120羽がならび、川岸ではカワウ270羽が休んでいた。	カモ類の種数・羽数ともに、これからますます増えることと思われる。	200羽～300羽のカワウの群れ2つ(約500羽)が居たためか、又は太陽光発電パネルの面積が増えたためかカモの数が少なかった。	カモが約1,000羽になった。マガモが中心でカマガモやホシハジロも増えてきた。特に目立ったのがトモエガモで180羽を観察した。	カモの数は昨年同時期に比べてまだ少ないようである。大淀川学習館近くでミヤマガラスの群れが見られた。	カモの総数は昨年同時期とほぼ同じ数であった。河口の海洋側では台風で運ばれた流木の撤去作業が行われていた。		
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ								
	マガン									
	シジュウカラガン									
	コクチョウ									
	コブハクチョウ									
	コハクチョウ									
	オオハクチョウ									
	オンドリ			3			10			
	ヒドリガモ	308	25	4	69	75		86	61	
	キンクロハジロ		2				1			
カイツブリ科	カイツブリ	9	4	1	2	5	2		3	
カンムリカイツブリ	3			1	1				2	
ツル科	ナベヅル									
マナヅル										
カモメ科	ユリカモメ	1				2				
タカ科	オオタカ		1							
ハヤブサ科	ハヤブサ									
検査優先種2	カモ科	マガモ	341	456	202	18	140	660	554	18
	オナガガモ	111			5	7				1
	トモエガモ						180			
	ホシハジロ		24				67			1
	スズガモ				4					
	クイナ科	オオバン	11	1	1	25	37	10	8	26
タカ科	オジロワシ									
オオワシ										
ノスリ										
クマタカ										
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種3	カモ科	カルガモ	99	25	193	131	123	63	396	176
	コガモ	105	12		99	55	2			87
	ツクシガモ									
	ハシビロガモ	3				26	12			
	ヨシガモ									
	オカヨシガモ				17					13
	※検査優先種1,2以外全種									1
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ								
※検査優先種1,2以外全種										
ウ科	カワウ	2		271	13	497		42	18	
サギ科	アオサギ	17	1	6	2	13		1	1	

令和3年3月中旬現在

	調査時期	11月中旬				11月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R2.11.14	R2.11.14	R2.11.13	R2.11.13	R2.11.29	R2.11.27	R2.11.27	R2.11.27	
飛来状況		前年度同 時期と同 程度の飛 来状況と 思われ る。観察 後近くで チョウゲン ボウ・ノス リ等の猛 禽類が見 られた。	池のハス はまだ青 く枯れて いないと ころが多 く、カウ ントしず ら。猛禽 類はミサ ゴ・オオ 効が観察 された。	カモ類は、 前年度同 時期と比 べて少な い。相生 橋下流の 電線には ツバメ12 0羽がな らび、川 岸ではカ ワウ270 羽が休ん でいた。	カモ類の 種数・羽 数ともに、 これから ますます 増えるこ とと思わ れる。	200羽 ～300 羽のカワ ウの群れ 2つ(約 500 羽)が居 たため か、又は 太陽光発 電パネル の面積が 増えたた めかカモ の数が少 なかつ た。	カモが約 1,000羽に なった。 マガモが 中心でカ ルガモや ホシハジ ロも増え てきた。 特に目 立ったの がトモエ ガモで1 80羽を 観察し た。	カモの数 は昨年同 時期に比 べてまだ 少ないよ うであ る。大淀 川学習館 近くでミ ヤマガラ スの群れ が見られ た。	カモの総 数は昨年 同時期と ほぼ同じ 数であつ た。河口 の海洋側 では台風 で運ばれ た流木の 撤去作業 が行われ ていた。	
	調査優先種3	ツル科 タンチョウ <small>※検査優先種1,2以外全種</small>								
カモメ科	ウミネコ								15	
	セグロカモメ	6			4	5			10	
	オオセグロカモメ				2					
	カモメ									
	コアジサシ <small>※検査優先種1,2以外全種</small>				1					
ミサゴ科	ミサゴ	2	3		1	3		1		
タカ科	トビ	9			3	15			4	
	ハイタカ									
	サシバ									
	ハイロチュウヒ									
	チュウヒ <small>※検査優先種1,2以外全種</small>									
フクロウ科	コミズク <small>※検査優先種1,2以外全種</small>									
ハヤブサ科	チョウゲンボウ <small>※検査優先種1,2以外全種</small>			1			1			
その他の種	カラス科	ハシボソガラス		3	5	8	23		4	11
		ハシブトガラス	20	7			28		1	18
	サギ科	クロサギ	1							
		ダイサギ	38	1	3		41	1		
		コサギ	22				1	5		1
	クイナ科	バン				1				
	シギ科	イソシギ	2		3	1	3		2	3
		タシギ					3			
	カワセミ科	カワセミ	3	1			3	2		
	ヒタキ科	ジョウビタキ		5	1	5	3	4		2
	セキレイ科	ハクセキレイ	1	2		6	4	1	2	7
	ツバメ科	ツバメ	2		130	2			2	2
	スズメ科	スズメ	8		5	8	5			2
ウグイス科	ウグイス	2	7	4	2		3	4	7	
ホオジロ科	アオジ		2				2			
計(単位:羽)		1,126	585	830	431	1,122	1,021	1,104	490	
うちカモ類		967	547	399	343	426	995	1,036	358	
うち猛禽類		11	4	1	4	18	1	1	4	

前年調査	1,254	324	2,227	450	977	795	3,126	466
前年調査(カモ)	1,052	300	1,937	271	634	747	3,030	328
うち猛禽類	7	1	1	5	3	1	1	7

令和3年3月中旬現在

	調査時期	12月中旬				12月下旬			
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川
	調査日	R2.12.11	R2.12.11	R2.12.11	R2.12.11	R2.12.27	R2.12.25	R2.12.26	R2.12.25
飛来状況		上空をジェット戦闘機が轟音を立てて飛び回っているためかカモの数が非常に少なかった。	カモの数は、11月中旬以降毎回、前年同期より増えている。今回は前回より増えて約1,300羽になった。マガモ、トモエガモが増えている。	カモ類は相生橋より下流の調査範囲では、昨年同期に比べて、種はヒドリガモ・マガモ・カルガモの3種であったが、数は約8割であった。	カモの種としてはヒドリガモとオナガガモが減っているが、総数は前回調査とほぼ同じである。	カモの数が漸く1,000羽を超えたが例年と比較して少ない。前年度同時期と比較すると約1,300羽少ない。	カモの総数は前回調査より増えたが、前年度同時期と比較して700羽少ない。今季はマガモが例年より少ない。	カモ類は前年度同時期の半数である。オオバン群れが見られた。例年になくカモの数が少ないが理由は不明。大淀大橋付近の右岸側で浚渫工事中。	カモの総数は前回調査とほぼ同じだが、前年度同時期の約7割である。絶滅危惧種のトモエガモが飛来していた。
	ツル科	タンチョウ							
検査優先種3	カモメ科	ウミネコ			33				13
		セグロカモメ			6	9			5
		オオセグロカモメ							
		カモメ							
		コアジサシ							
		※検査優先種1,2以外全種							
ミサゴ科	ミサゴ	3	1	2	1	2	1	1	
タカ科	トビ					6	1		4
	ハイタカ		2				1		
	サシバ								
	ハイロチュウヒ					1			
	チュウヒ								
※検査優先種1,2以外全種									
フクロウ科	コミズク								
※検査優先種1,2以外全種									
ハヤブサ科	チョウゲンボウ								
※検査優先種1,2以外全種									
その他の種	カラス科	ハシボソガラス	3	2	32	3	5	4	1
		ハシブトガラス	1	7	3	9	16	4	9
	サギ科	クロサギ							
		ダイサギ	8	1	18		3	1	11
		コサギ	2		2		5		
	クイナ科	バン							1
	シギ科	イソシギ			1	3	2		1
		タシギ							
	カワセミ科	カワセミ	2	3			2	1	
	ヒタキ科	ジョウビタキ	2	4	1	1	3	4	3
	セキレイ科	ハクセキレイ	5	1	1	3	4		3
	ツバメ科	ツバメ		3	1		2	5	300
	スズメ科	スズメ			1	11	59		24
	ウグイス科	ウグイス		4	1	3	2	3	3
ホオジロ科	アオジ		3			1		1	
計(単位:羽)		742	1,361	822	485	1,435	1,467	1,362	608
うちカモ類		650	1,311	750	317	1,244	1,422	983	341
うち猛禽類		3	3	2	1	10	4	1	4

前年調査	1,418	1,094	2,906	749	2,789	2,163	3,700	724
前年調査(カモ)	1,102	1,032	2,863	594	2,555	2,117	3,632	482
うち猛禽類	5	6	3	5	9	0	3	5

令和3年3月中旬現在

	調査時期	1月中旬				1月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R3.1.16	R3.1.15	R3.1.16	R3.1.15	R3.1.31	R3.1.29	R3.1.29	R3.1.29	
	飛来状況	カモ類の数は1,000羽を超えているが、前回調査とさほど変わらない。昨年度同時期と比べて約200羽程度多い。	カモ類の総数は前回調査より若干減少し、昨年度同時期と比べると約1,000羽減少している。最も多いマガモでも昨年より約800羽少ない。	カモ類の数は前回調査より若干減った。ヒドリガモは少し増えたが、マガモとカルガモは少し減っている。	カモ類が前回調査から半数以上減少している。減少の原因は不明。	カモ類の総数は前回調査の134%に増加したが、昨年度同時期と比較すると95%程度である。	カモ類の総数は前回調査より330羽ほど少なかった。昨年度同時期と比較すると770羽ほど減っている。カモ類以外ではカワウが56羽観察された。	昨年度同時期と比較してマガモ・カルガモの飛来数が少ない。カモ類の総数も半分に満たない。	カモ類の総数は昨年度同時期と比較して33%程度と少ない。	
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ								
		マガン								
		シジュウカラガン								
		コクチョウ								
		コブハクチョウ								
		コハクチョウ								
		オオハクチョウ								
		オンドリ		10				10		
		ヒドリガモ	79	25	216	82	259	114	387	94
		キンクロハジロ	10	2			7	4		
カイツブリ科	カイツブリ	1	5	2		4	4		5	
	カムリカイツブリ	3	1		3	11	2		2	
ツル科	ナベヅル									
	マナヅル									
カモメ科	ユリカモメ									
タカ科	オオタカ		1			1				
ハヤブサ科	ハヤブサ									
検査優先種2	カモ科	マガモ	363	964	397	6	597	536	190	13
		オナガガモ	84				206	2		1
		トモエガモ						3		
		ホシハジロ	88	142			75	105		
		スズガモ								3
	クイナ科	オオバン	37	8	1	17	20	3	3	11
	タカ科	オジロワシ								
		オオワシ								
		ノスリ		2			1			
	フクロウ科	フクロウ								
検査優先種3	カモ科	カルガモ	464		303	23	361	22	189	44
		コガモ	53	42		24	77	36		27
		ツクシガモ	46				30			
		ハシビロガモ	22	8			12	36		
		ヨシガモ								
		オカヨシガモ				12				8
	※検査優先種1,2以外全種									
	カイツブリ科	ハジロカイツブリ					2			
	※検査優先種1,2以外全種									
	ウ科	カワウ	9	20		25	37	56		25
サギ科	アオサギ	14	6		1	12	7	1	1	

令和3年3月中旬現在

	調査時期	1月中旬				1月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R3.1.16	R3.1.15	R3.1.16	R3.1.15	R3.1.31	R3.1.29	R3.1.29	R3.1.29	
飛来状況		カモ類の数は1,000羽を超えているが、前回調査とさほど変わらない。昨年度同時期と比べて約200羽程度多い。	カモ類の総数は前回調査より若干減少し、昨年度同時期と約1,000羽減少している。最も多いマガモでも昨年より約800羽少ない。	カモ類の数は前回調査より若干減った。ヒドリガモは少し増えたが、マガモとカルガモは少し減っている。	カモ類が前回調査から半数以上減少している。減少の原因は不明。	カモ類の総数は前回調査の134%に増加したが、昨年度同時期と比較すると95%程度である。	カモ類の総数は前回調査より330羽ほど少なかった。昨年度同時期と比較すると770羽ほど減っている。カモ類以外ではカワウが56羽観察された。	昨年度同時期と比較してマガモ・カルガモの飛来数が少ない。カモ類の総数も半分未満に満たない。	カモ類の総数は昨年度同時期と比較して33%程度と少ない。	
	ツル科	タンチョウ								
検査優先種3	カモメ科	ウミネコ			22				2	
		セグロカモメ	1			3	1		4	
		オオセグロカモメ								
		カモメ								
		コアジサシ								
		※検査優先種1,2以外全種								
	ミサゴ科	ミサゴ	4	1			5	1	1	
	タカ科	トビ	2			2	8	3		
		ハイタカ								
		サシバ								
ハイイロチュウヒ		1								
チュウヒ										
※検査優先種1,2以外全種										
フクロウ科	コミズク									
※検査優先種1,2以外全種										
ハヤブサ科	チョウゲンボウ									
※検査優先種1,2以外全種										
その他の種	カラス科	ハシボソガラス	1	4	2	8	12	2	2	1
		ハシブトガラス	1	13		23	1	6		17
	サギ科	クロサギ								
		ダイサギ	1	9			1	20	4	
		コサギ			1		2		15	1
	クイナ科	バン								
	シギ科	イソシギ	4			1	3			
		タシギ	10				3			
	カワセミ科	カワセミ		3			1	1		
	ヒタキ科	ジョウビタキ	4	4	2	3	2	4		4
	セキレイ科	ハクセキレイ	9	1		4	10			4
	ツバメ科	ツバメ	10		4	2	4		100	
	スズメ科	スズメ	58			8	12		2	5
ウグイス科	ウグイス	3	5		3		2		3	
ホオジロ科	アオジ	1	3		4	2	2		2	
計(単位:羽)		1,383	1,279	928	276	1,779	981	893	278	
うちカモ類		1,209	1,193	916	147	1,624	868	766	190	
うち猛禽類		7	4	0	2	15	4	0	1	

前年調査	1,125	2,370	3,685	868	1,882	1,689	3,056	731
前年調査(カモ)	974	2,315	3,660	644	1,704	1,634	3,025	576
うち猛禽類	13	2	0	3	5	4	1	4

令和3年3月中旬現在

	調査時期	2月中旬				2月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R3.2.14	R3.2.12	R3.2.15	R3.2.11	R3.2.27	R3.2.27	R3.2.27	R3.2.27	
飛来状況	カモ類の総数は前回調査の63%に減った。猛禽類はオオタカとミサゴが木の枝に休んでいた。	カモ類の総数は前回調査より若干増えたが、昨年度同時期の約半数である。過去7年間の同時期では最も少ない。	カモ類の総数は前回調査の85%に減った。ヒドリガモは約1/4に減った。しかし、カルガモは2倍に増えている。カモ総数は昨年度同時期の33%である。	カモ類の総数は前回調査とほぼ変わらないが、昨年度同時期の約半数である。過去7年間の同時期では最も少ない。	強風のため小鳥類は殆ど藪の中に入り、カモやサギは葦の中や風の弱い岸近くに集まっていた。	例年に比べてカモの数が少ない。150羽のツバメの群れが観察され、池の北側の木ではアオサギが2箇所抱卵中。	カモ類の総数は昨年度同時期のほぼ半分であった。特にマガモが少ない。ツバメが多く飛んでいた。	カモ類の総数は前回調査とほぼ変わらない。		
検査優先種1	カモ科	ヒシクイ								
	マガン									
	シジュウカラガン									
	コクチョウ									
	コブハクチョウ									
	コハクチョウ									
	オオハクチョウ									
	オシドリ						6			
	ヒドリガモ	235	46	86	94	130	57	79	54	
	キンクロハジロ	9	5			2	3			
カイツブリ科	カイツブリ	4	8	1	1	2	7	1	1	
	カムリカイツブリ	2	1		1	1	2			
ツル科	ナベヅル									
	マナヅル									
カモメ科	ユリカモメ									
タカ科	オオタカ	1								
ハヤブサ科	ハヤブサ									
検査優先種2	カモ科	マガモ	263	806	158	3	231	648	45	12
	オナガガモ	43	4		1	20			1	
	トモエガモ	2	3				3			
	ホシハジロ	46	118			63	93			
	スズガモ				3	1				
	クイナ科	オオバン	23	9	17	9	4	11	13	19
タカ科	オジロワシ									
	オオワシ									
	ノスリ		1		1	1	1			
	クマタカ									
フクロウ科	フクロウ									
検査優先種3	カモ科	カルガモ	330	64	406	37	361	62	365	47
	コガモ	74	21		23	130	75		65	
	ツクシガモ	14				13				
	ハシビロガモ	4	24				56			
	ヨシガモ				3				1	
	オカヨシガモ				16				24	
	※検査優先種1,2以外全種									
カイツブリ科	ハジロカイツブリ									
※検査優先種1,2以外全種										
ウ科	カワウ	5	92	1	87	3	5	2	22	
サギ科	アオサギ	21	3	1	1	2	8	5	2	

令和3年3月中旬現在

	調査時期	2月中旬				2月下旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R3.2.14	R3.2.12	R3.2.15	R3.2.11	R3.2.27	R3.2.27	R3.2.27	R3.2.27	
飛来状況		カモ類の総数は前回調査の63%に減った。猛禽類はオオタカとミサゴが木の枝に休んでいた。	カモ類の総数は前回調査より若干増えたが、昨年度同時期の約半数である。過去7年間の同時期では最も少ない。	カモ類の総数は前回調査の85%に減った。ヒドリガモは約1/4に減った。しかし、カルガモは2倍に増えている。カモ総数は昨年度同時期の33%である。	カモ類の総数は前回調査とほぼ変わらないが、昨年度同時期の約半数である。過去7年間の同時期では最も少ない。	強風のため小鳥類は殆ど藪の中に入り、カモやサギは葦の中や風の弱い岸近くに集まっていた。	例年に比べてカモの数が少ない。150羽のツバメの群れが観察され、池の北側の木ではアオサギが2箇所抱卵中。	カモ類の総数は昨年度同時期のほぼ半分であった。特にマガモが少ない。ツバメが多く飛んでいた。	カモ類の総数は前回調査とほぼ変わらない。	
	ツル科	タンチョウ								
検査優先種3	カモメ科	ウミネコ			50					
		セグロカモメ	2		40	3			30	
		オオセグロカモメ				3				
		カモメ								
		コアジサシ								
	ミサゴ科	ミサゴ	6		1	2	3		1	
	タカ科	トビ	3	3		2	4	2		5
		ハイタカ		2						
		サシバ								
		ハイロチュウヒ								
チュウヒ										
フクロウ科	コミズク									
ハヤブサ科	チョウゲンボウ					1				
その他の種	カラス科	ハシボソガラス	9	2	3	5		2	9	2
		ハシブトガラス	8	4		1	11	3		21
	サギ科	クロサギ								
		ダイサギ		1	1		3	2		
		コサギ	3		1	1			5	
	クイナ科	バン								
	シギ科	イソシギ	2			1				1
		タシギ								
	カワセミ科	カワセミ		1						
	ヒタキ科	ジョウビタキ	3	2		1		2		1
	セキレイ科	ハクセキレイ	2			2		2		1
	ツバメ科	ツバメ	3	52	4	3		150	200	
	スズメ科	スズメ	4		3	24	6			4
ウグイス科	ウグイス	1	2	1	1		6	4		
ホオジロ科	アオジ		4		2		3			
計(単位:羽)		1,122	1,278	684	418	995	1,207	731	314	
うちカモ類		1,020	1,091	650	180	951	1,003	489	204	
うち猛禽類		10	6	1	5	9	3	1	6	

前年調査	1,442	2,189	3,565	612	1,176	2,037	3,156	519
前年調査(カモ)	1,385	2,126	3,531	340	1,042	1,866	3,023	304
うち猛禽類	4	2	2	6	6	1	1	3

令和3年3月中旬現在

	調査時期	3月上旬				3月中旬				
	調査地名	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	
	調査日	R3.3.6	R3.3.5	R3.3.5	R3.3.6	R3.3.13	R3.3.13	R3.3.13	R3.3.13	
飛来状況		カモ科は10種で1,000羽を超えたが調整池・河口域とも全面に散らばっていた。カモメ科・ウ科・猛禽類は少なかった。	前回調査と比べてカモの総数はほぼ変わらないが、種別ではマガモ・カルガモ・ハシビロガモが減少してヒドリガモが増加した。	カモの数は前回調査より1割減、昨年度同期より4割減である。昨年と比較してヒドリガモとカルガモの数が減少している。	カモの数は前回調査の約4割減、昨年度同期より約65%減少している。昨年と比べてヒドリガモとコガモの減少が大きい。	前回調査より若干カモの数が増えたが、渡りを前にして集まっているものと思われる。猛禽類はトビとミサゴだけであった。	マガモやカルガモは減ってきたが、ヒドリガモが非常に多かった。渡りを前にした動きと思われる。	カモ類は非常に少なかったが、サギ類が群れていた。	渡りを前にしてヒドリガモが今冬最多の105羽を数え、カモの総数は前回調査と比較して若干増えたが、昨年度同時期の約9割であった。	
	ツル科	タンチョウ								
検査優先種3	カモメ科	ウミネコ			4					
		セグロカモメ	3		2	1			3	
		オオセグロカモメ								
		カモメ								
		コアジサシ								
	ミサゴ科	ミサゴ	3		2	1	2		1	
	タカ科	トビ	5			7	2			3
		ハイタカ								
		サシバ								
		ハイロチュウヒ								
チュウヒ										
フクロウ科	コミズク									
ハヤブサ科	チョウゲンボウ			1						
その他の種	カラス科	ハシボソガラス	8	2		4	6		5	3
		ハシブトガラス	7	3		28	9	13		7
	サギ科	クロサギ								
		ダイサギ	2	2			12		9	
		コサギ	3			1	5		4	1
	クイナ科	バン	1							
	シギ科	イソシギ	2			1	4		1	
		タシギ								
	カワセミ科	カワセミ		2			1	1		2
	ヒタキ科	ジョウビタキ	4	3		1	1	2		1
	セキレイ科	ハクセキレイ	5		2	2	3			3
	ツバメ科	ツバメ	7		5	3	8	3		2
	スズメ科	スズメ	19		2	9	5			7
	ウグイス科	ウグイス	5	7	7	6	4	9	12	5
	ホオジロ科	アオジ	7	3		2	4	2		1
計(単位:羽)		1,313	1,153	484	238	1,359	1,216	354	266	
うちカモ類		1,198	1,093	443	124	1,245	1,143	317	182	
うち猛禽類		9	0	3	8	4	1	0	4	

前年調査	619	2,063	2,083	489	893	1,189	2,245	380
前年調査(カモ)	518	1,965	2,019	352	831	1,116	2,194	204
うち猛禽類	3	3	2	7	5	2	1	3